月五季入和昭

帖填寫空航

部本空航軍陸







### 月五丰八和昭

### 帖填寫空航

部本空航軍陸



陸軍大將井上幾太郎閣下題字



学用务务



閉鳳

聖上陛下

今村燕古中佐筆

御野立所ョリ飛行演習天覽遊ハサル





昭和八年五月四日陸軍航空本部行幸御寫員

川縣着御

1.

若

御

部技術部 る開前 本迎ノ和 有管

飛行場二出御 (

(其二)



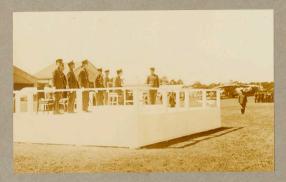








飛 場 H 御 (共二) 陳列航空器材ノ天覽 選 御 1 製財団法人 日本航空協会









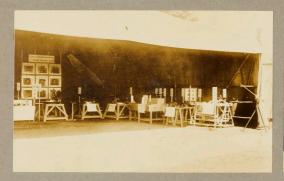
天 變計 射 品 擊 洞 用 器 移 材

天覽品 安 用

具

天覽品 種 發 動 機











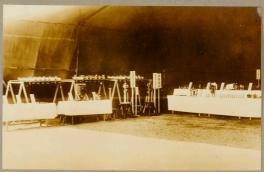
天覧品 學 測 器 材 器

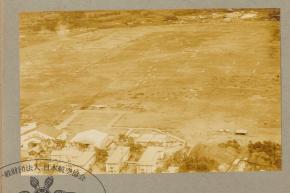
天 製 資 智 雅 僧 (共二)

天覽品











天覽 演習 飛行 天覽 演習 简 釣

取

天覽演習 作 作 (其二)

天覽演習

陸











佐祭機ニ對スル戦闘機ノ攻撃 空 中 戦 闘 天覽演習 被財団法人日本航空協会

天覺演習

天覽 演習 下

傘 投



阻塞氣珠/昇騰 隨 演習

一、介式飛行機第一號(德川式) 一、介式飛行機第一號(德川式) 一、無製飛行機模型 一、九二式偵察機模型 一、九二式偵察機模型 一、九二式偵察機模型 三台









# 秩父宮殿下飛行第四聯隊隊附御勤務中ノ御寫眞昭和五年八月

善導寺附近ニ於テ歩兵行軍縱隊ノ御撮影機上ノ秩父宮殿下

殿下御撮影ノ空中寫真

善導寺附近ニ於ケル歩兵行軍縱隊

本山口附近集成寫真

飛行第四聯隊ノ全景殿下御撮影ノ空中寫真











### 歷代臨 時軍用氣球研究會々 長 ノ寫眞

至同四三、五、三八二六 間 至同 五、三、三一

陸軍中將 島 健

至何 四四元、一陸軍中將 男爵 石 本 新

至同 五、八、一八 陸軍中將 井

至大正 二、五、一三 中期治四四、九、一 陸軍少將 間

陸軍中將 14 隆

至同三、四、二〇日大正二、五、一三 陸軍中將 郷 太 郎

童同 九、五、一四 陸軍中將 14

# 臨時軍用氣球研究會ノ設置

明治四十二年七月三十日勅令第二○七號ヲ以テ陸海軍大臣ノ監督ニ屬エル臨時軍用気 収研発の制ラ教布セラレ八月二十八日会長及委員ノ任命アリテ茲ニ日本飛行界ノ永遠 実研究の制ラ教布セラレ八月二十八日会長及委員ノ任命アリテ茲ニ日本飛行界ノ永遠 (東京) 大月三十日陸海軍南大臣ハ會長陸軍中將長岡外史ニ訓令ヲ與ヘタリハ月三十日陸海軍南大臣ハ曾長陸軍中將長岡外史ニ訓令ヲ與ヘタリ

之ニ關スル諸設備ヲ定メ及氣球及飛行機ト地上トノ通信法ヲ研究スルヲ以テ目的トス臨時軍用氣球研究合ハ軍時ノ要求ニ適スル遊動氣球及飛行機ヲ設計試驗シ其操経法及



















# 臨時軍用氣球研究會設立前人航空沿革人寫真

## ョーン」式緊留気球並水素發生機

明治二十四年佛國「ヨーン」會社ヨリ容積三五〇立 シ工兵會議二交付シ研究セルモノナリ 方米ノ球型緊留氣球並繁留車瓦斯發生機各一ヲ購入

之ラ使用センルトノ議アリシモ既ニ氣囊ハ衰損シ其用 シ屢々昇騰試驗ラ行と明治二十七年日清戰 役起ルヤ工兵會議審査官工兵大尉北川武専テ之カ研究ニ 從事 耐ヘサリシナリ

### 型 紫 留

離最大九百米高度七十米飛行時間ニ十分ノ記録ナリ)中尉ト同乗シ日本最二 | 日本飛行ラ實施セリ飛行距 中尉ト同乗シ日本最二 | 日本飛行ラ實施セリ飛行距 

### 多摩川日野橋附近ニ於ケル 木製氣珠水壓試驗

近)ノ流水中二實驗シ水壓二對スル安定ラ檢セリ當

### 日本風式試製氣球ノ昇騰試驗

ニテ書夜連綴作業ラ以テ氣球ヲ膨張シ十二月二十六同年十二月二十四日工兵會議構内(麴町區宮士見町)明治三十三年九月輕氣球谷六九積三立方米ヲ試作シ 日試揚ノ光景ナリ

同校二於テ工兵會議倒造ノ日本風式繁留氣球昇騰準 備ノ闘ナリ 明治三十四年十二月二十三日 砲工學校卒業式當日

獨國製風式繫留氣球

カリシモノナリ

瓦斯發生作業ノ光景ナリ ラ使用シ清國八隻船都家屯ニ於テ水素 管轉換ラ受ケタル麥酒擀式 水素 發生機 明治三十七年七月海軍 輕氣球除ヨリ保 同上補助氣囊ニ依り水素瓦斯ヲ逐撒ス



















日本式繁留氣球(四三式)/昇騰/圖

明治四十二年十二月山田製作所ニ繋智氣球テ製作セッ・明治四十三年十二月山田製作所三繋智氣球テ第一回牙騰 試験ノ行モン常日ノ光景チリ 試験ノ結果細式トラン採用シ明治四十五年以后逐次 試験/結果細式トラン採用シ明治四十五年以后逐次 は球は一交付セッ 大正三年八月青島戦ニ参加シ郷立第十八師側航空隊

> 関準備中ノ日本式繁骨氣球ナリ 関本のサー年秋中野ノ電信教導大隊、營庭ニテ昇

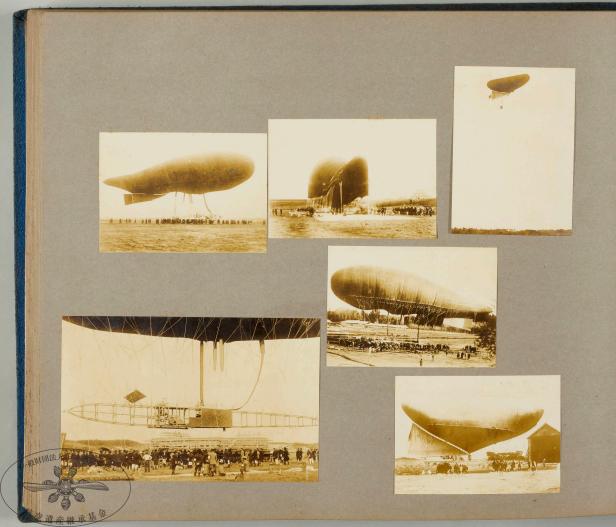
不號 飛行氣球 其一

イ號 飛行氣球 其三

不號 飛行氣珠

其四





### **不號 飛行氣球** 其五

象狀	飛行時間	緻距	大速	均高	大高	飛行記錄	飛行ノ光景
晴無風		四粁五〇〇	毎砂九米	10米	六〇米		

## バルセバール式飛行氣球 共一

臨時軍用氣球研究會長長関中務ハ明治四十四年六月 臨時軍用氣球研究會長長関中務ハ明治四十四年六月 四元三代理店東京市明石町「ラスペ」商會ヲ経テ購 スス

**宮展へ受解検査/光景ナリ** 「 京展へ受解検査/光景ナリ

### 自由氣球ノ飛行

明治四十五年臨時軍刑氣延昨党會ニ於テ自由飛行用 ドンテ初ステ鶏國・リーデンケル・資献ヨリ木編製寮 ドンテ初ステ海米ノ球狀自自電球一衛ラ購入セリ 明治四十五年八月中野氣球隊ヨリ寄居ニ初ノ値繁飛 行ア鶯ス操縦総団工長大国両飛長尾工長少尉(久左) ナリ

## 大正元年八月三十日所澤ニテ膨張ヲ終ル「バルセバール」気球 其二

	發動	乘	全重	全容	全	全	全	型	
時間	機	員	献		高	幅	長	武	
二〇時間		1		八〇	二五米五〇	一六米〇〇	七六杆六七		

# 飛行ノタメ飛行場三機出ノ光景 其三

「バルモバール」或者行氣原と別以、一九〇六年廟園 「バルモバール」或者行氣原と別。 「成行不信」が、「別要、保り同議「ゲツチング」 」大學「ブランドル」教授ノ氣徳三間スル研究ト 同議(ビッターアルル)。航空衛會計・キーファー」技 師「帰還二個ラス仲代労労力」ニョリ製作完成ス 木機、製作器製第十三撃ナリ





昇騰直前ノ吊舟 式飛行気球 其四

東宮田ノ光景ナリ 大正元年八月三十日夕陽ニ映ユル府澤原顕ニ初× 大正元年八月三十日夕陽ニ映ユル府澤原顕ニ初× 大正元年八月三十日夕陽ニ映ユル府澤原顕ニ初× 大正元年八月三十日夕陽ニ映ユル所澤原顕ニ初×

飛行中ノ勇姿

# 獨佛兩國ヨリ飛行機ノ購入

明治四十三年一月二十五日気球研究合席上ニ於テ合長・外國飛行機予購入シ飛行ヲ試い、ルラ飛行機操織術係業及飛行機購入ノ爲メ歐洲ニ出張ヲ命セラル、ルラ飛行機操機術修業及飛行機購入ノ爲メ歐洲ニ出張ヲ命セラル

一、購入スへ未飛行機へ先ッ「アントワネフト」一層型一筒及「ファルマン」二層型一高の選先シ之の機能法を得シタル後差量期間内ニ於テ尚非機能法を修得シタル後差量期間内ニ於テ尚非機能法を修得シ路が加めて批計フへシングラーデ」一層型及「ライト」二層型一個ヲ購入スンが加めて批計フへシント

市大は八者信信各種飛行う質見を帰國ニ族テハ「アンリーフアルマン」式及「アントフルマン」式、大型定を到調ニ於テ最新型優秀機タル「ライト」式及「グラーデ」式、対理フ以テンと、大人順行・田中三年乃至四十四年四月頃ノ間ニ三井物産株式合証ノ手ョリ「アンリー、ファルマン」式「グラーデ」式、13年1月頃八間ニ三井物産株式合証ノ手ョリ「アンリー、ファルマン」式「グラーデ」式、13年1月頃八間ニ三井物産株式合証ノ手ョリ「アントフルーコリ解初セン・主教物機へ歐洲ニ於ケル最信式二属シ慶々敬障フ仕起センモノナルニョリ解初セン・主教物機へ歐洲ニ於ケル最信式二属シ慶々敬障フ仕起センモノナルニョリ解初セン・主教物機へ歐洲ニ於ケル最信式一属シ慶々敬障フ仕起センモノナルニョリ解初セン・主教物機へ歐洲ニがクル最信式一属と「大阪」

「アントワネット」式飛行機

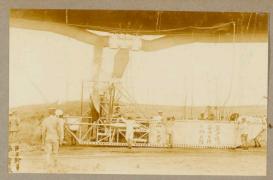
本機ハ最初日本ニ購入豫定ナリシヲ以テ徳川大尉 ハ佛國ニテ本機ヲ練智ス中途ニシテ、佛國秋季演習ニ於テ優秀ナル成績ヲ示ミタル『ブレリオ』式ニ

### 我國最初ノ佛國飛行免狀

明治四十三年四月 - 日経総報経業ノ営ノ機國ニカテ命モランタル他川大房・同マーリカ日俳國「カンドンギンヤロシ」で於テル「アンリーファルマン」飛行、原文に於テ卒業試験上及市授良セラレタルモノトス 異 気質 徳 川 大 昌 登算 徳 川 大 昌















# 我國最初八飛行

代々木練兵場ニ於ケル 初飛行ノ光景明治四十三年十二月十一日陸軍省建築成技明治四十三年十二月十一日陸軍省建築成技師ノ設計ニ依ル飛行機格納天都フ初メテ代本大理与リリ境行機が組立テ始メ製十三日ニーニョリ境行機が組立テ始メ製十三日ニー

明治四十三年十二月十九日明治四十三年十二月十九日

# 「アンリーフアルマン」式飛行機ノ採用由來

「アンリー、ファルマン」式飛行機、最新型ナル「ボアザン」複葉=改良り加へ佛人「アナニスター間三○○粁ノ飛行四時十二分削ニテ成功シ世界的名離ヲリテ倫敦マンサーフアルマン」カ創造セルモノナリ常時佛人『ボールハン』ハ本機ヲ以テ倫敦マンサー、ファルマン」式飛行機、最新型ナル「ボアザン」複葉=改良り加へ佛人「ア

お職門四分乗行距離三○○○米ノ初記録ヲ残セリの発行距離三○ペコノをとりをは、明治四十三年十二月十九日午前六時東京代々木練兵場ニ於テ徳川工兵大尉とおより、日本の一十二月十九日午前六時東京代々木練兵場ニ於テ徳川工兵大尉

出發準備

代々木練兵場ニ於ケル格網庫及試驗飛行準営真ハ代々木練兵場ニ於ケル格網庫及試驗飛行準

雅

中

滑















### 「グラーデ」式飛行機採用ノ由來

グラーデ」式飛行機

出發

準

備

那

那

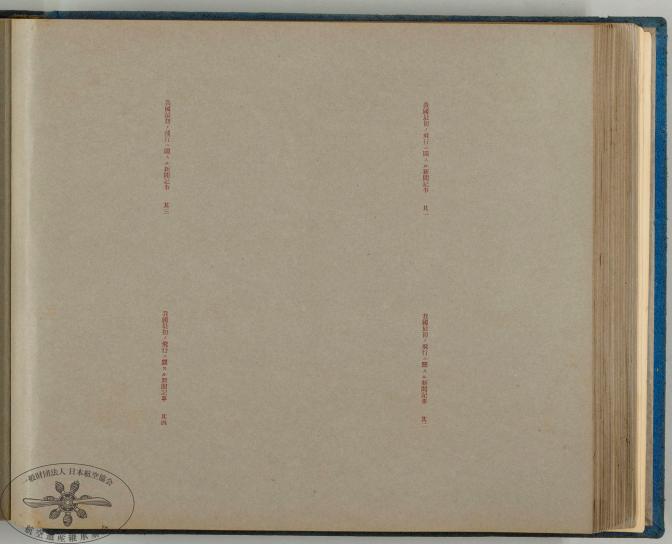
中

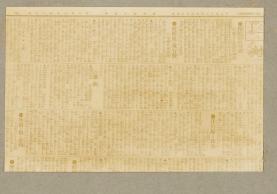
二月十五日午前十時 一月十五日午前十時

操縦者 日野歩兵大尉 十二月十五日午前十時















我國最初ノ飛行ニ關スル新聞記事 其五

我國最初ノ飛行ニ關スル新聞記事 其六

明治四十四年四月十五日(麻澤) 維智者 梅北海軍機關大尉 供職 工 兵 中 尉 「グラーデ式飛行機ノ地上駛走練智

我國最初ノ飛行ニ關スル新聞記事

其七

開設當時ノ光景 明治四十四年所澤試驗場



#### ライト」式飛行機

採用ノ由來

本邦購入機小獨國飛行機製造會社ニ於テ各部ニ於テ改良ヲ加ヘラレタルモノナリシテ各部ノ構造機能ハ研究上價値少ナカラサルモノト恕メタリシスを部ノ構造機にハ研究上價値少ナカラサルモノト恕メタリ

日野大尉試驗飛行ヲ質施ス 日野大尉試驗飛行ヲ質施ス

座席及發動機 「ライト」式飛行機

壁

「ライト」式飛行機

「ライト」式飛行

飛行機ニョル練習

教官トナリ飛行操縱術ノ教育ヲ開始ス明治四十四年所澤試驗場ニ於テ徳川工兵大尉

近衛師園長 関院宮殿下 所澤試驗場台臨 所澤試驗場台臨

氣象製測用佛國ゴーメー會社製一人用軍用風ラ大正元年十二月臨時軍用氣球研究會ニ於テ高辟 ( 祭 用 風

寫異八大正元年所澤二於テ飛揚ノ光景

氣象觀測用器材 高層 氣 象 用 凧

飛 高層氣象用風





## 初ノ野外飛行

最

間当外集団年八月九月所等・川越間ノ第・ 間当外集団を質能シー飛行師離四二群元 高度四五○米飛行時間三五分)成功・リ 所澤武聡場當日ノ光景 格効庫前ノ飛行機・他川大野接続山瀬 中島同様(アンソーフィールマン」式

飛行中ノ 野外飛行機

最初ノーブレリオ : 武飛行機野外飛行 間別の中四年六月九日第 - 回野外飛行 = 於ケル | アレリオ : 武飛行機野外飛行 = 於ケル | 提 報 者 | 徳 川 大 財 | 徳 十 内 財 | 伊 康 中 財 |

飛行中ノ「ブレリオ」式飛行機 祝 初 ノ 野 外 飛 行

同 最初ノ野外飛行

最初ノ飛行機不時着陸

明治四十四年六月九日午前六時五十分徳川大尉 明治四十四年六月九日午前六時五十分徳川大尉 復野外飛行ラ行を歸途社通言・故院アルラ毅見 シ川越南方約十五町預信「不存著陸ラナス

レリオ式飛行機

最初ノ飛行機不時着陸





明治四十四年六月七日投クモ 東宮蓋石(夏王殿ト・リ東京武官長陸和中将 東宮蓋石(夏王殿ト・リ東京武官長陸和中将 東宮武石(夏王殿・シメ徐つく) 展行機 東京武成場の一次選行機

同 試験場ニ於ケル村木東宮武官長

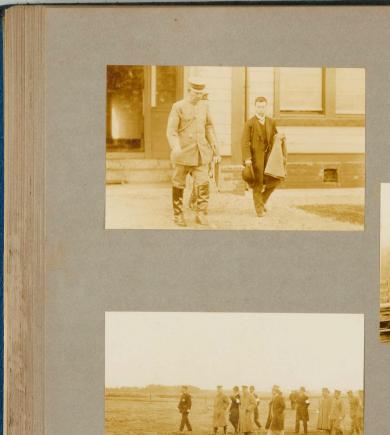
四 代 行 機 7 陳 列 「アンリーファルマン」式飛行機

同

明治四十四年六月九日 明治四十四年六月九日 明治天皇ョリ侍従武官長陸軍中將中村駿ヲ明治天皇ョリ侍従武官長陸軍中將中村駿ヲ明治四十四年六月九日

明治四十四年四月二十九日 所澤試驗場來場2景 所澤試驗場來場2景













會式 第一號 飛 行機 合式 第一號 飛 行機

會式第二號飛行機

ラ 装着シ練智機トシテ本機ノ機式ヲ採用セリ 能ヲ一枚トシテ發動機タ「アンザニー」六○馬力 明治四十五年度ヨリ會式第一號ヲ改造シテ方向

外國製飛行機ニ比シ損色ナシ

関治四十五年六月 - 日ヨリ第一期値察將校(修 期間四三ヶ月) 七月 - 日ヨリ第一期値察將校(修 東開間三ヶ月) 七月 - 日ヨリ セリ 1 日ヨリ 2 南ハ其頃ノ練習飛行

開治四十四年十月十七日















機上ハ長澤中尉・機前ハ井上仁郎中将飛行機操縱將校卒業野外飛行ヲ實施ス 大正二年六月下旬所澤一國府臺間第一期 我國最初ノ卒業飛行

> 修 業 式 光景

**松衛修得徽章ラ南奥・リ** ・大正二年六月三十日第一動き初メテ飛行機操 川大尉長澤中尉澤田中尉ニ動き初メテ飛行機操 川大尉長澤中尉澤田中尉ニ動き初メテ飛行機操

寫真八淺田大尉、木村中尉 將校ト操縱將校第一期ノ偵察

寫異ハ 將第 校一 

> 臨時軍用氣球研究會關係諸官 大正元年所澤附近特別大演習ノ際ニ於ケル

大大大尉總末尉木 川松 村 大大尉 中 尉

ル特別大演習當時ノ所澤飛行場 大正元年十一月埼玉縣下ニ於ケ

館

質

第一期偵察將校ト操縱者

小 漫 澤

關 陸 豫 工 工 陪 工 工 理 險 飛 鄉 工 遺 二字 簇 蜜 原 長 集 架 長 馬 原 軍 茅 軍 聚 集 年 年 中主 森 高校 田核松乡 哪个 附件中 井 四 牌 并 少 甲醇 印度 中午 中中 中野北 旧序 村崎 声传 川佐 甸 用佐 上 佐 中土 上灣 村士 房 一次 完 疾 選 村計 音 次 发 度 集 条 发 生 緒 阿 蔥 剪 罗 郑 三 郑 郑 《 郑 郑 三 郑





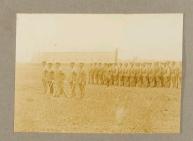












#### 本 初 航 空 犠 牲者

「ブレリオ」式飛行機

木村砲兵中尉(鈴四郎)

一式飛行機

殉 職 遺 品

> 造 品

木村砲兵中尉

徳田歩兵中尉(金一)

面

飛行里・ブレッオ・武飛行機・松井村・森 本写真・摩子・町子 町田 四月十三 日本川大尉か宮時・最大記録ナ作リン時ナリ 日本 度 二五〇米 時 間 一時間九分三〇伊 町 雌 八〇杆

1000 落

現

場

徳田歩兵中尉ノ 品























徳田 両中尉墜落地記念碑 徳田 両中尉墜落地記念碑

使田南中尉記念碑除幕式 株村南中尉記念碑除幕式

大正三年十一月尾急特別大演習:会加なり宮時ノーモーリスフアルマン『太飛行機・空間時プーモーリスフアルマン『太飛行機・空間機・カードの馬力』下 ハ 徳州工長大尉 下 ハ 徳州工長大尉

於ケル 東軍

大正二年十一月尾參特別大演習一

大正二年十一月尼桑特別大演習:**参加** セン宮時ノ舎式第三號飛行機 (發動機グノーム五〇馬力) 機上ハ関騎兵中尉

大正二年三月二十八日所部一吉山練兵基間 大電野外飛行三於テ 台式第二號 同第三號 「ブレッチ」式飛行機及 バルセパール。式航 で船子賞菜両部議員、銀曜三供セシトキーノ 吉田練兵場ノ光景デリ (木村、徳田両中海殉職・倉目)

飛行場上一般見物人 大正二年尾参特別大演習二於ケル西軍



















大正二年十一月尾参特別大演習ニ於ケル 観兵式 分列式 大正天皇御親閥 城空ノ両軍ノ飛行機

大正二年十一月尾鏊特別大演習三於ケル 観兵式 閲兵式 大正天皇御親閥

親兵式ト「イ」號緊留氣球 大正二年十一月尼参特別大演習二於ケル

大正二年十一月尾参特別大演習ニ於ケル名古屋





間ノ長距離往復飛行ヲ實施シ成功セリ大正四年二月下旬ヨリ三月上旬ニ亘リ所澤大阪

大正三年第二期交通衛修業員修業式

重松步兵中尉(撃)ノ血書ノ志願

同

松步兵中尉

重松中尉血書ノ遺

品















大正三年青島戦役ニ会加セシ「ニューポール」 関変機 「グノーム」五十馬力殺動機ヲ装着シ権護錠

青島戦役二於ケル機上ヨリ見タル青島市街

飛行班ノ修理工場

大正三年青島戰役參加ノ操縱將校

「ルノー」七〇馬力發動機ヲ裝着ス

大正三年青島戰役ニ使用セシ我投下爆弾 ファルマ・

青島戦役二於ケル石油庫ノ火災

投下爆弾 フアルマン」式飛行機 大正三年青島戦役ニ参加セシ「モーリス● 青島戦

役



飛 行 船 雄 飛 號

航空船雄飛號

本船の臨時軍用氣球研究官ニ於テ駕國一バルセポール二式飛行氣球が大場テラを除って、改良了加へ建筑投票減額・24年大学を除った。 エ平に自今限加工基本任に営本技師(周平) 工事に自今限加工基本任に営本技師(周平) 工事に自今限加工基・役を一川完工ス 相舟一一バルセルー、式明別、モノラの造使

寫異ハ命名式ノ光景

船 命 名書

大正三年四月公式運轉ヲ終リ四月二十一日之ヵ 命名式ヲ行モ「雄飛」ト命名ス 田 所 後漢書趙興傳「大丈夫富雄飛

航 船格 納 坤

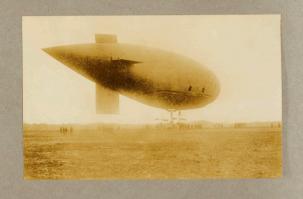
航發 乗全全全全全 發動人員 量積 高幅長

航空船雄飛號ノ諸元

本格納庫





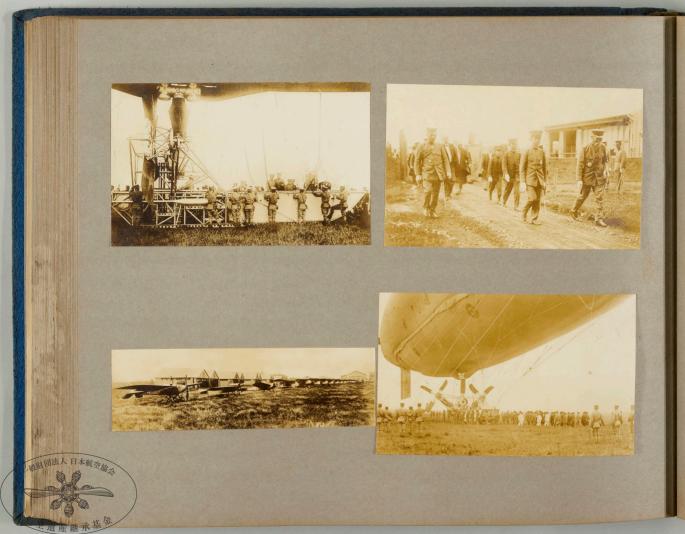




命名書命名書命名書 帝名書 帝名書 李雄飛」一命名不 大亚四年四月十二日 陸軍大臣岡市之助五 海軍大臣門市之助五



大正四年七月十一日 皇太子 裕仁親王殿下ハ 二皇子殿下と御同剣=テ所澤橋に超三行啓アラ とラレ各種飛行機、飛行船及県欧高塚・飛行等 宮蓋ハサレタリ 宮 薫 雄 雅 號 躄 其 雄 那 覧 號 飛 台 覽 機 其 , 般財団法人 日本航空協会



大正四年五月臨時軍用氣球研究官ノ設計工係ル制式係ル制式係・財産の国際第ノ所選・ラ製作中ノ光景・ラ学者本技師財力設計委員トラ大正四年十一月製作財力設計委員トラ大正四年十一月製作

制式、第

號

機

大正五年四月制式第一號試験飛行・實施 とり是本非原用制式飛行機・嚆矢ナリ ・ 後方 - 機を制体・接とシュル知の参議。 アリ

組立ヲ終リタル制式第一號機

澤田工兵中尉(秀)

育式第七號飛行機ノ設計製作ヲ監督シ 育式第七號飛行機ノ設計製作ヲ監督シ

會式第七號飛行機

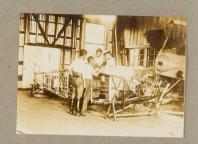
製作セシ本邦製軍用小型飛行機ノ嚆矢ナ大正五年一月軍用氣球研究會ニ於テ設計

第七號飛行機

飛行中ノ會式















「グレームホワイト」式飛行機

大正五年氣球研究曾へ杉山工兵少径(正))調査 エ基主當時歐洲 / 周方戦場三活躍セル英國帝用 「ゲレールキワイド」式大型飛行捷の購入「回機 が複葉五九栗ニッラは飛行捷の購入」回機 就撮影/用途使用セットシ大正六年十月接騰 練習中大破ス

大正四年時代/所澤飛行場/全景

「スタンダード」飛行機

高速度飛行機研究用トンテ米國コリ「スタンダ高速度飛行機研究用トンテ米國コリ「スタンダット・二二五一一五〇馬カラフ大正六年六月乃至大正七年三月迄購入2推議幣校十数名ラ之ニコリ疫版セリ

一王」式 四型練智機

大正四年以降佛國ョリ購入と心でと、武一九一四年理ニョリ研究會所導工場テが完皇院・上海・ア・国家・大正七年八月四比利亞及北浦方面ニ出動シタル大正七年八月四比利亞及北浦方面ニ出動シタル

「ツ」式一型飛行機

大正六年十二月神戸市山下亀三郎ハ陸海軍飛行 挟建造費百萬國ヲ第財。健軍配富五十萬國ヲ以 歩英國ヨリ,ソ武、型張行健集提織,建成 七月各務夕郎三於テ「以武戦行機提提織,建成 教育ヲ實施シ同年八月四比利亞出長ノ第一第二 航空隊ニ安結セリ

「五」式 六型最行機

第一第二航空隊:若干使用セシメタリ
第一第二航空隊:若干使用セシメタリ















# 大正七、八年西比利亞出兵事件ノ寫眞

境界ナリ燃料ハ之ラ伐採使用セリ 松多ク密生ス中央ニ通スルー直線ハ大

「ジローワ」際北方約千米ニアル者陸場 「ジローワ」際北方約千米ニアル者陸場

「クエンガ」停車場東側草地ナリ「ネルチンスク」東方約三十吉米ニアル

第二航空隊

モ式四型飛行機離陸ノ瞬時「キノンスコエ」湖上ヨリスル氷上飛行

露軍野營地「バラック」

「チタ」西北方約十二吉米ニアル露軍野堡





伊國飛行隊援助派遣員

援助派遣員・伊岡・派遣とり 援助直派遣り要請アリ陸軍大臣ハ本訓示ヲ與ヘ 提助直派遣り要請アリ陸軍大臣ハ本訓示ヲ與ヘ 大正七年九月

> **ノ『カシナコスタ』飛行學校ノ正門** 伊國航空隊援助派遣員ノ入校セル『ミラノ』近郊

「カシナコスタ」飛行學校修業記念寫真トス

スタ」飛行學校ノ全景

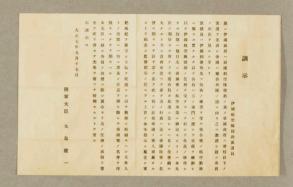
同校教官立二 バリラ 騙逐機















航 創立 航 後 革 寫眞 部 長

100

**陸軍大將** 

至自昭和四年三月十六日 1日昭和四年三月十六日

井上幾太郎 至明和 网 年三月 十 六 日 東京 八 年四月 十 五 日 東京 八 年四月 十 五 日

四初代代

古 谷 清

白川 義則

・ 同 年八月 六 日

整同 六年八月 一 日 自昭和五年六月 二 日

安溺 欽一 至同 十五年七月二十八日 六 日

三代

杉山 自昭和八年三月十八日

















陸軍航空本部 下志津陸軍飛行學校 景 P9 明野陸軍飛行學校 所澤陸軍 飛行學校 景 景 **能財団法人 日本航空協会** 航空遺産継承基金











# 臨時航空術練習委員關係ノ寫真

各務ケ原操縱班ノ全景 臨 時 航空衛練智 委 員

各務ケ原操縦班ニ於ケル練習機ノ飛行準備

智 を務ケ原操縦班ニ於 ケル専修員ノ地上練

滑走機手入 上

本邦ニ於ケル最初ノ高等飛行各務ケ原操縦班ニ於ケル甲式三型練習機の高等飛行り演習





**編隊群ノ演習** 各務原操縦班ニ於タル甲式三型練習機ノ

佛國航空側長「フォール」大佐

大正八年二月ョリ所澤、各務少原、下志津 立ニ立方ヶ原、新居二於 テノ各種高速投飛 可機整備飛投下氣球機法等、沖練門ヶ開始 さ 間年九月是ヲ終了セリ

各務ヶ原操縦班台臨ノ各宮殿下

**魯院宮殿下ト「フオール」大佐各務ヶ原ニ於ケル** 

SE展下トーフォール。大佐













税察ノ川村、東両元帥一行

各務ケ原操縦班視察ノ東郷元師ノ一行

田中陸軍大臣ト「フリューリー」少佐





# 佛國航空團ノ教育二供セシ飛行機

大正七年三月時局線影・ナリ四比利亞出兵廠行 大正七年三月時局線影・ナリ四比利亞出兵廠行 武官フシテ機國信制者・承認文受ケ海途・機 ツトー臓迷機・サルカン・信察機等・角速速機 のトーが大力シー信察機等・角速速機 エーボールー飛行機ラ購入シ本機ニヨリ航空機 スパーと、といいのファール

「ニューボール」式八三 22 型練習機ニシテ木再陸軍ニ於テハ甲式二型練習機・稱シ「ローヌ」式八○馬力愛動機ヲ裝著シ中聞階梯機トシテ大正八○馬力愛動視ヲ裝著シ中聞階梯機トシテ大正

寫真ハニューボール式八〇型練習機

「ニューポール」式八一Ω練習機・移シ「ローヌ」式八〇 ニ於テハ甲式一型練習機・移シ「ローヌ」式八〇 以降教育用ニ使用セリ

深戦闘用ニ供シ高等飛行ノ教育フモ行へリ 深戦闘用ニリース三人式 一回 (1) 規継智機ニシケ本邦 ニ於テハ甲式三規維智機・シテ高速度通行機機 シス「ロース」式 一〇島力登動機ニを助

バーデュラルミン 製飛行機トシテ本邦ニ初ープレ ゲーゴ十四型B 飛行機

装セリ

大野川 大学 ユラルモン 製売行機トンテ本邦 三初 本機ハーデュラルモン 製売行機トンケ 声が 大野 大学 大工八年之テ使用シ富士山 フト エア 飛行 セン 最初 した アポイ サン サン 飛行機トナリ

皮 式 一 型 練 習 機 皮 式 一 型 練 習 機

大正十二年迄使用セリ

| 下式 一型 戦 闘 機 本機/推議が元 本機/推議が元 本機/推議が元 | 110年方来二〇 | 120回程 | 110回程 | 1

丁式一型爆擊機

を間爆撃用飛行機研究ノ営ノ大正九年四月機関 「ファーマン 宮肚ファーマン式 ワジ 型飛行機 サ購入シ本邦陸軍ニテハ丁式・型爆撃機上稱シ 大正十一年八月ョリ航空機上交付シ使用セリ 性 能 諸 元

主要面積 (○ 平方米 全 幅 1二米三五○ 全 長 (一 ○ 米 ) 二三七軒 が平速度 高度三○○米 ) 三七軒 が下速度 高度三○○米 ) 三七軒





## 大正八年時局川トシテ佛國ョリ郡人シタル「ス バット」式草原脳迷鏡ニシア本邦陸軍ニ於テハ 内式、型戦闘峡 将ジ 大正十年度特別大演習 ニ ハ代々木継兵県テ世線トシラ武州平野ニ活躍セ リ本潟県ハ其宮時ノ光景ナリ

#### 式三型 練習

大正十一年五月以降内式一型戦闘機。代へ木機 男職八七ルニ始マリ木磯バ大正六年ニ佛國駅二 様男職人セルニ始マリ大正七年三月以降所澤安 年度ヨリ甲式四型子使用シ大正十四 月ラウ使用セサルニ至レり 窓真ハ飛行準備ニアル甲式三型練臂チリ

## 式三型飛行機

シ大正八年一月現品到者シ航空第一第二第四大上一年六月英國大使館附武官が英國軍部品省大正七年六月英國大使館附武官が英國軍部品省 車航空班ニ支給セリ

全備重量 上昇能力 諸元 

### 島式五型飛行機

民間飛行機製造業者中合資會社日本飛行機製作所へ大正七年五月群島縣人田町 - 展工場 フ 設置 シ同社員中島別 4万千 イ 研究等工成 中央 中央 第 3 天正八年五月正式 - 護軍 コ り 社文 シ 之 ラ 中島 武石型飛行機 ト 都 シ 要 技術 院 一 大 正 八 年 末 以 降 受 付 セ シ モ 本 ク 使 用 セ フ ュ ル エ で 至 ラ ナ リ ソ ナ ナ フ リ セ さ て テ ナ リ ソ ナ ナ フ リ セ さ か ・ ニ で ラ ナ リ ソ ナ

## アプロ」式飛行

機

「ソ」式三型飛行機ハ直・総智用=供シ畑キニョッ本視ラ練習用トシテ英国ョリ購入シ大正八年リ本視ラ練習用トシテ教園・19人工流行機ノ際棒機トシテ付水利・部屋から、発展トエノー部=使用セルモ中線とアエノー

数年ナラスシテ中止セリ 大正九年以降航空學校ニ於ケル操縦 大正九年以降航空學校ニ於ケル操縦

三型滑走機

己式一型練智機

代へ初歩練習機トシテ使用セリ大正十二年以降甲式一型練習機ニ





丁式二型爆撃機ニ對シ甲式四型戰闘機ノ編隊群

糖

大山十一年十月三十日所澤ノ隆軍航空模校 - 於 ・大山十一年十月三十日所澤ノ隆軍航空模校 - 於 シテ丁式二型爆撃模及乙式一型債案機 ラ以ラ初 メテ夜間飛行う資施セリ

最 初 , 夜 間 飛

行

同

同



丁式二型爆擊機

陸軍ニ於テ爆撃機トシテ改造ノ上採用シタルモラレタル「ファーマン」式 〒60 型飛行機プ日本大正九年項歐洲ニ於テ旅客輸送用トシテ賞用セ

テ爆撃聯隊ニ支給シ昭和三年六月ヨリ逐次廢棄大正十年十一月以來航空學校爆撃班ニ支給シ次 



R型繁留氣球ト一型自由氣球

R型高球小大正八年一月以來機械控制指導ノ 計二共取扱及運用法ラが開立。 以二化三等2の優秀ナルコナラ線スラレ 大正五年之テ氣球隊二交付セリ版二若干或敷シ カルモリラー型繁質気球ト帯セリ

九二式繫留氣珠

作セラレタルモノナリ 作セラレタルモノナリ 作せラレタルモノナリ

BD型繫留氣球

**リ日本陸軍ノ貸メニ分議人手シ得タルモノナリリ日本陸軍ノ貸メニ分議人手シ得タルモノナリー少佐ノ厚怠ニ依** 

乙 式 一型 債 祭 機

ルムツゴ 式銀行徒・立英・原州・現ハレタル「サルムツゴ 式銀行徒・立英フ加・水邦隆軍ニ於
テ乙式一型債条機・得・近距離債寮用・シテ大
正八年十二月貨幣地上等は、支給シ大正十五年
二月運制式・ナリ本邦官民工場ニ於テ製作シ債

察職ニ支給セリ

全 解 - 一米七六七 全 長 八米六三四 全 毎 日 - 一米七六七 全 年 日 - 一十八粁 水平速度 三千米・ラー十八粁 田 四 時 間 内 時 間

朝鮮海峽橫斷飛行

・ というできます。 というでは、 一般では、 一

寫眞ハ當時ノ新聞ニョル野外飛行ノ一記事ナリ

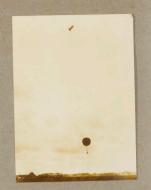
















薩哈曉派遣軍航空班ノ活動

派 造 軍 飛 行 班

薩哈 嗹





中 次 四 型 戦 闘 機 中 次 四 型 戦 闘 機 明 次 四 型 戦 闘 機 戦闘後・希子五十四型

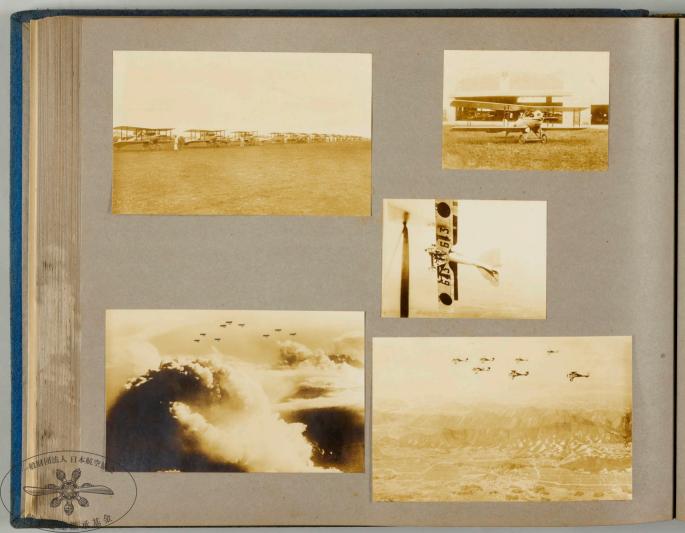
甲式四型戦闘機ノ高等飛行(横轉)

各務ケ原上空ニ於ケル甲式四型戦闘機ノ編隊

参加ノ甲式四型戦闘機

急工・放うプロテ四四軍関権ノ組織





東宮裕仁親王殿下氣球演習ラ 東宮裕仁親王殿下氣球演習ラ

東宮裕仁親王殿下氣球除ニ行啓アラセラル

大正十一年十一月二十六日 東宮裕仁親王殿下陸軍航空學校ニ

所澤女部ニ行啓アラセラル 東宮裕仁親王殿下陸軍航空部補給部 東宮裕仁親王殿下陸軍航空部補給部











振政宮殿下下志津陸軍飛行學校ニ 振政宮殿下下志津陸軍飛行學校ニ

所澤二於ケル獨填押收飛行機台覽ノ各宮殿下

同

機行演習台覧アラセラル 機政官殿下下志津陸軍飛行學校ニ於テ 大正十五年七月十九日











式輕爆撃機 八七式輕爆擊機/ 飛 飛 彩財団法人 日本航空協会





昭和三年五月濟南事變ニ於ケル

濟南二於ケル飛行場

濟

南

事

變

昭和三年五月濟南事變ニ於ケル 景





三方ヶ原ニ於ケル 八七式重爆擊機 旗 習 離陸瞬時ノ八七式重爆撃機 昭和三年十一月大禮觀兵式參列 八八式輕爆擊機 般財団法人 日本航空協会



本土ヲ難レテ台灣へ

**中村、花澤両大尉ノ報告** 

所澤 ニ 於 ケル 出 簽命 令

台灣飛行ノ寫眞

所 澤 出 發





昭和五年五月三十日靜岡縣下行幸ノ際

八八式一型債察機ヲ以テ空中燃料ノ補給

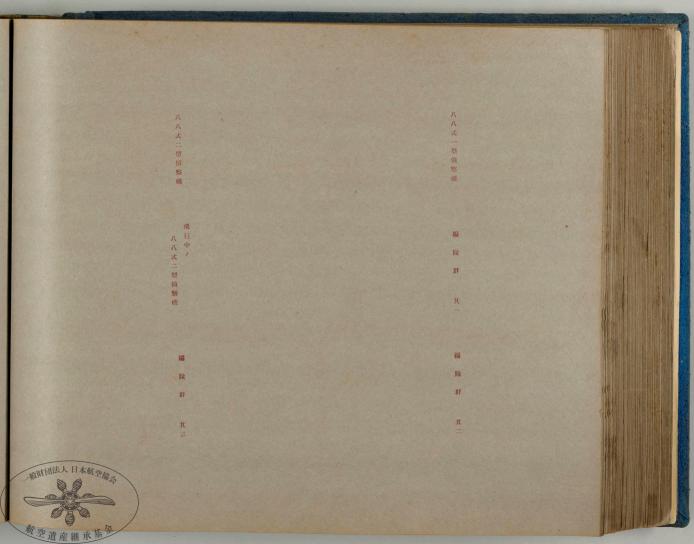
四和三年各務ケ原附近ニ於ケル特別航空兵演習

昭和五年十一月岡山縣下大演習ノ際東軍飛行場 ニ行幸/ 大元帥陛下

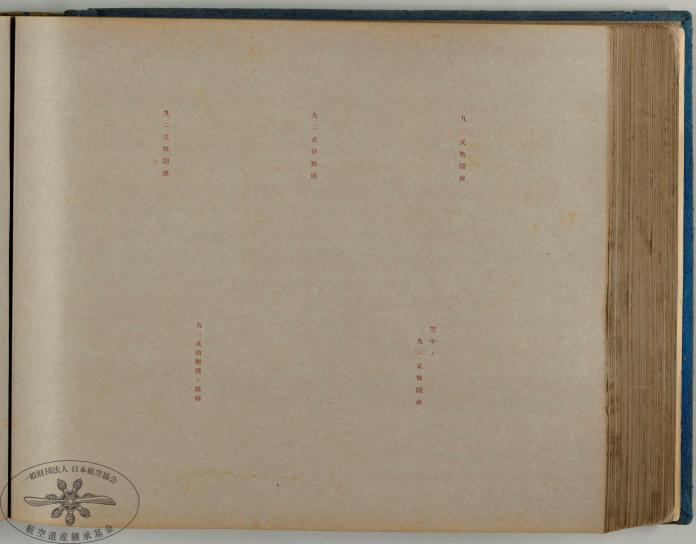


與財団法人 日本航空協会 航空 遺産 継承基係

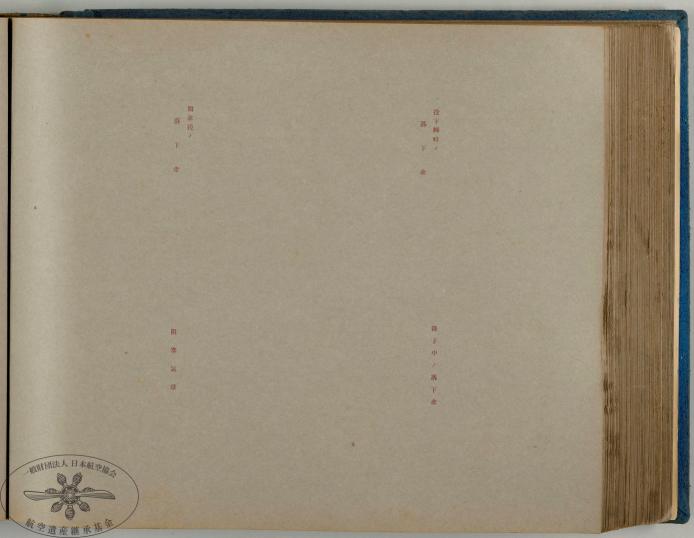






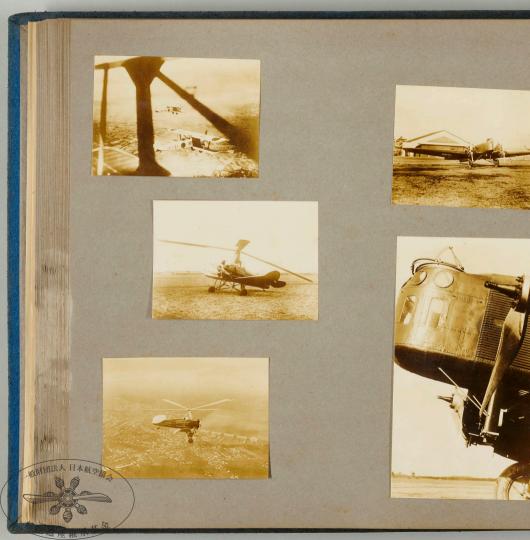








熱河ノ上空ニ活躍セル愛國號 愛 國 號 國 號 民 機 献 納愛 愛「オー國 1 號 國號 飛 行機 同 雅 才 翔 **。** 被財団法人 日本航空協会



上海東溝灘陸軍飛行場

嘉定三於ケル氣球第一中隊

一大除並獨立飛行第三中除ノ飛行場上海派遣軍司合部タリシ公大第一紗廠及飛行第

Gn.

Ŀ

海

事

變

上海派遭軍野戰兵器廠航空部倉庫並同飛行場

報財団法人日本航空協会



虹 獅 橋 子林 微 他臺 飛 煤 祭 場 跡 第九師團苦戰奪取セシ江灣鎮西端突角陣地 爆彈三勇土戰死ノ廟行饋 **能財団法人 日本航空協会** 



滿

洲

事

變

爆罪モ凍結セル北滿ノ寒氣

間島部落匪賊ノ襲撃ラ蒙リシ光景

打虎山四北方郭大菱屯ラ本線トセル脈城 昭和七年一月上旬打虎山四郎方郭大菱屯ラ本線 トセル脈城。野る爆撃ラ行せ越大ノ損害ラ県へ タリ

三姓市街ノ敵ノ無線電信所ニ對スル爆撃

昭和七年二月、ハルビン | 古領・同時・監戒行場 現和七年二月、ハルビン | 古領・同時・監戒行場 ・ 昭 賀 雅 行 場















拉哈停車場附近ノ爆撃

東和七年十月撲棚/ 背反ト呼應セン徐子鷸所ハ 大軍ヲ以テ拉哈警備ヲ包開ス警備隊ハ孤立奮開スルコト賞ニ十數日ニ及フ白文字ハ債緊機ニ對

氷上ノ関形ハ敵ノ保壘ナリ 北 江 江

**暗爾賓北方東沈家窓棚ニ於ケル** 

却ノ選軍ニ對シ爆撃シ熱大ノ損害ヲ與ベタリ却ノ選軍ニ對シ爆撃シ熱大ノ損害ヲ與ベタリ遊路上ニハ人馬車輛散觀シアリ

方正東門附近退却中ノ憑軍爆撃





樺 國 境 海 岸

> 樺 豊 康 市

街

敷

町

本 邦 谷 地

航 空

寫 眞

店山軍機減ノ 歐

馬

昭和八年三月四日

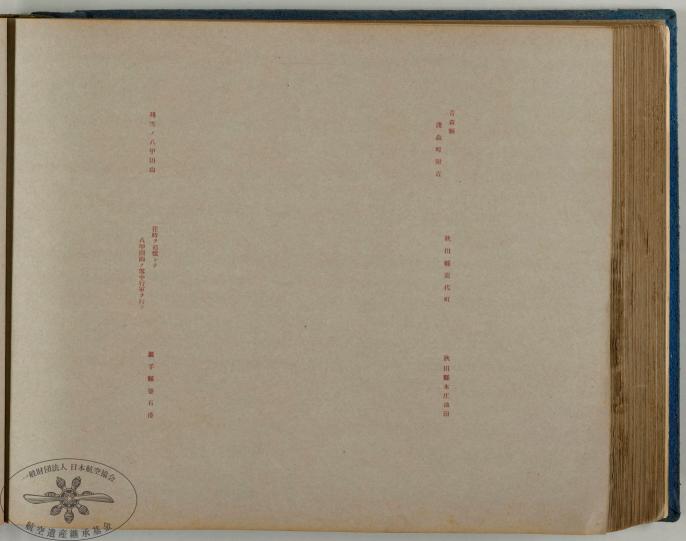
川原先遣部隊承德人城ノ光景



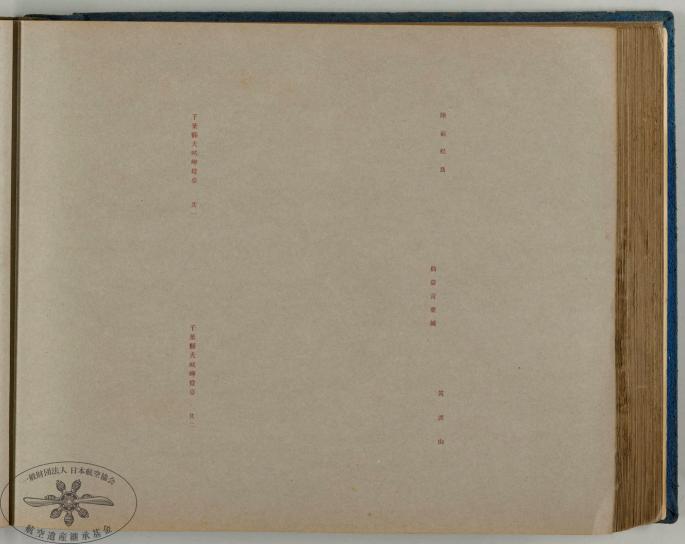


駒 北海道旭川町郊外 枥 其一 大 北海道旭川町郊外 沼 公 圆 製財団法人 日本航空協会

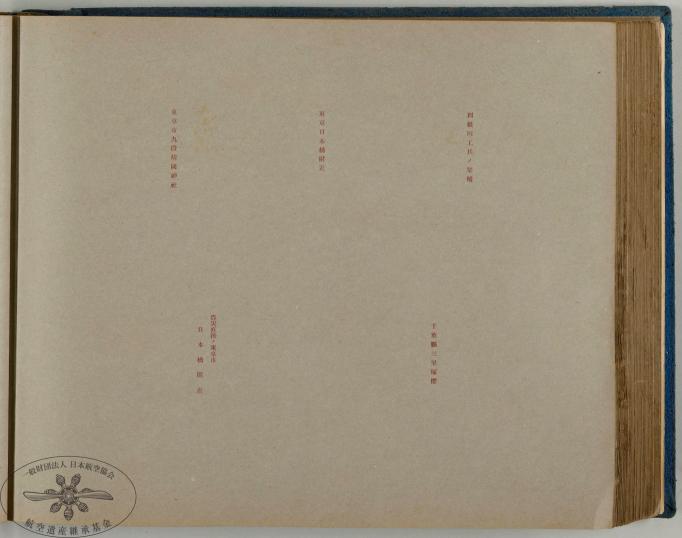




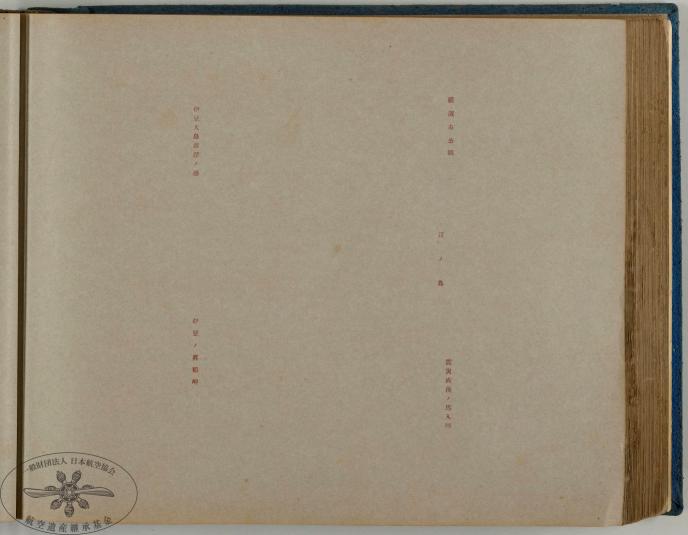














な 秋 士 ノ 山 富 士 共

答去力由富土共四

常 士 山 第 土 土 一

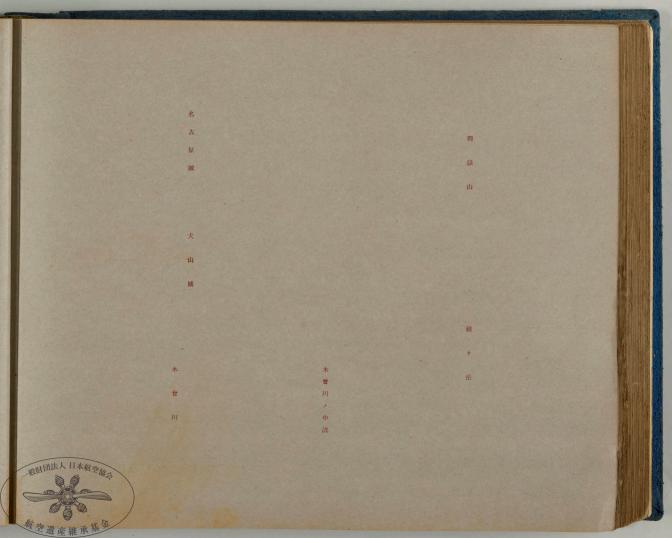
な 土 山 共二





箱 濱 根 蘆 名 湖 湖 76 残雪ノ富士五 穗 高 Ш 富 噴土水 口 其 六 被財団法人 日本航空協会









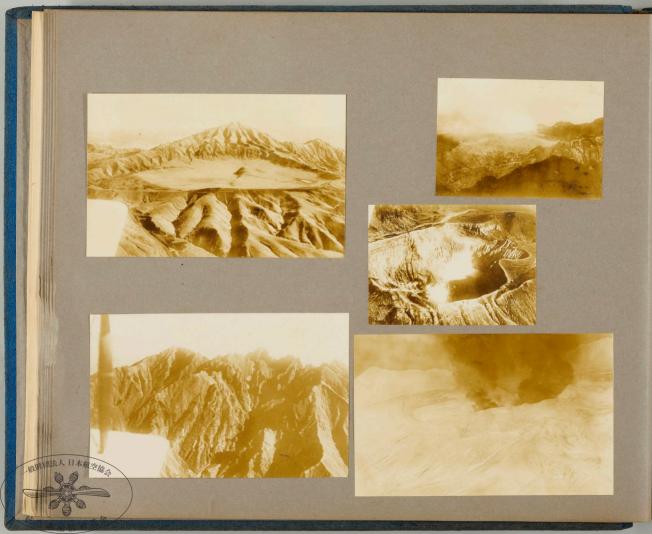


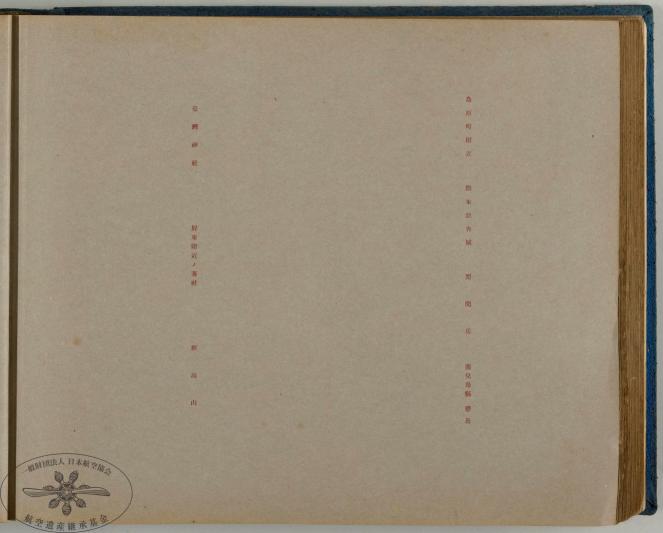
阿 蘇 里 山 ケ 選 二

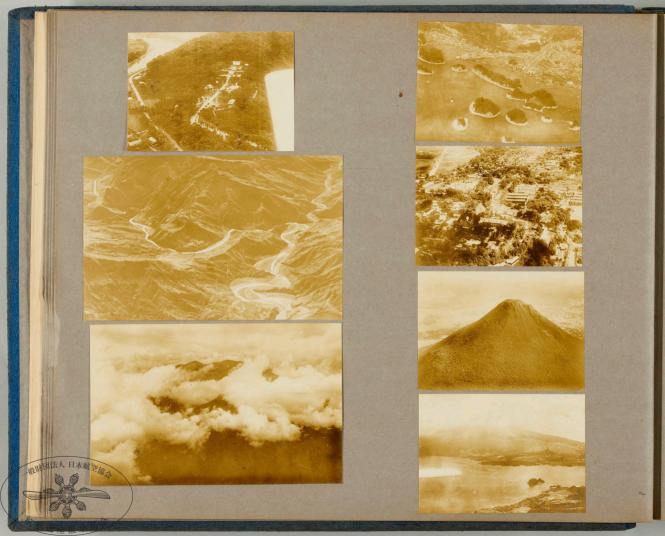
外輪山根子岳 共三

阿 蘇 山 英五 大五







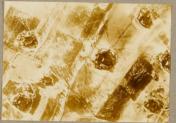


稲 朝 鮮 神 南 社 台 残雪 京 城 南 部落 [1] 雄 清 基 港 港



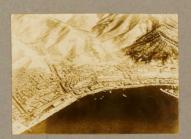














パ 結セル 松 花 江

局

子 街

間 島 龍 市 街 奉 舊 市 街

奉 天 新 市

街

哈爾賓 + 松花江



航

空寫 眞

地

滿 洲 國 各

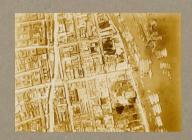




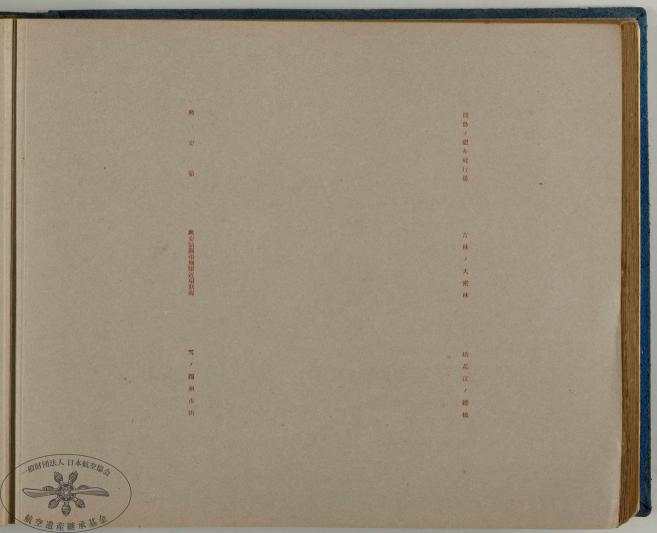














熱河省ノ地形

熱 河 省

朝陽東南方山上ノ喇嘛塔



長城

萬

1

萬里ノ長城ノ末端







此时团法人



